

さっぽろ未来創生プラン 令和元年度の実施状況

2020年9月 札幌市まちづくり政策局

1 第1期さっぽろ未来創生プランについて

札幌市の人口は、これまで一貫して増加してきたが、少子高齢化の進行などにより、ここ数年のうちに、人口減少に転じることが見込まれている。

そこで、人口減少の緩和を図るため、「経済的な不安を軽減し、結婚・出産の希望をかなえることで、子どもが増え地域が活性化することで経済も活性化し、さらなる雇用の創出につながる」という、市民が明るい未来を描くことができる好循環の確立を目指し、平成27年度から令和元年度までの5か年の施策等を盛り込んだ「さっぽろ未来創生プラン（以下、第1期プランという。）」を策定した。第1期プランでは、目指すべき将来の実現に向け、「安定した雇用を生み出す」と「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」の2つの基本目標を掲げ、様々な取組を行った。

なお、施策の実施にあたっては、国が地方版総合戦略の本格的な推進に向けて創設した「地方創生推進交付金」を活用している（参考資料2参照）。

2 数値目標について

基本目標を達成できるよう、様々な分野で取組を行ったが、道外への転出超過に歯止めがかからなかった。また、合計特殊出生率については、当初値よりも減少がみられ、目標を達成することができなかった。

指 標	当初値	R1	目標値
合計特殊出生率	1.16 (H26年)	1.14 (H30年)	1.36 (R1年)
20～29歳の道外への転出超過数	2,637人 (H26年)	2,673人 (R1年)	1,300人 (R1年)

3 KPI（重要業績評価指標）について

目標を達成したものと、目標達成に向けて改善がみられるものは、約60%となった。ICT化等の取組や企業誘致のほか、子育てに関する情報発信により、子育て世代の不安を軽減できたことが、目標達成の要因になった。

しかし、その一方で、国際情勢等の影響や子育てに対する認識に変化があったことで、数値の改善が難しかったものがある。

		基本目標1 「安定した雇用を生み出す」		基本目標2 「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」	
A	目標達成している	6件	27%	3件	21%
B	目標達成に向けて改善している	5件	23%	6件	43%
C	当初値より悪化している	7件	32%	5件	36%
-	数値未確定	4件	18%	0件	0%
合 計		22件	100%	14件	100%

※数値未確定のうち、国際会議の開催件数、食料品製造業の製造品出荷額、札幌市内のIT産業売上は、前年度の状況よりB、食品製造業の粗付加価値額についてはCとなる見込み。

4 KPI の分野ごとの評価

【基本目標1】安定した雇用を生み出す

(1) 札幌市産業の競争強化（分野別）

観光と食の分野の取組を進めた結果、目標達成に向け数値は改善したが、国際情勢の変化などを受け、達成に至らなかった。また、健康・福祉や環境等の産業では、関心の高まりが追い風となり一定の効果が見られた。

(2) 札幌市産業を支える基盤づくり（業種横断的）

デジタル化の推進や企業誘致については、目標を達成することができたが、グローバル化については、企業でのノウハウ不足などに課題があり達成に至らなかった。

(3) 地域が必要とする人材の育成・定着

医療・福祉産業などでは従業者数が増加し、中小企業へのフォローを行ってきたが、首都圏からの転入者数が伸び悩むほか、新規学卒者の地元定着に課題が残った。

【基本目標2】結婚・出産・子育てを支える環境づくり

(1) 結婚・出産・子育ての切れ目のない支援

子育てに関する情報発信等により、子育ての不安を軽減する取組を行ってきたが、児童虐待をはじめとする子育てに関する問題意識の高まりなどから、満足度が上がらない結果となった。

(2) 子どもへの支援の充実

子どもが健やかに育つことができるよう、学びや体験活動、相談体制の充実を図ってきたが、将来に漠然とした不安を持つ子どもの増加や、学校以外での体験機会の減少などにより、目標値の達成はできなかった。

(3) 子育てを支える社会の形成

ひとり親家庭の自立支援や児童養護施設の小規模化や里親委託件数が増え、家庭的な養育環境が整ってきた。その一方で、ワーク・ライフ・バランスの浸透が進んでいないことや、障がい児を受け入れる体制整備などについて課題を抱えている。

5 今後の取組について

第2期さっぽろ未来創生プランは、第1期プランに改善を加えて策定した。今後は、第1期プランでの課題や新型コロナウイルスの影響を考慮しながら、分野横断的な取組を進めていきたい。